

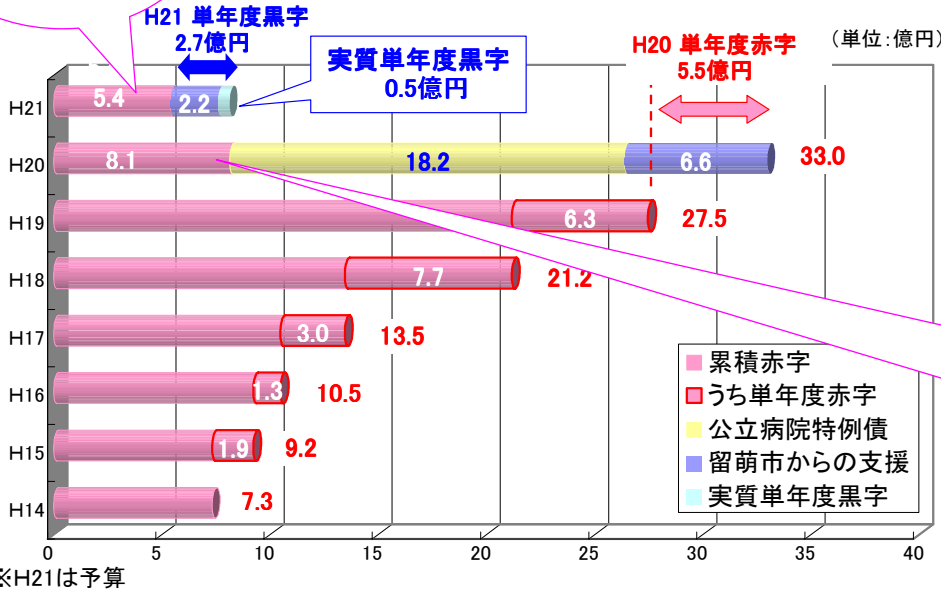
# 留萌市立病院の経営状況と「改革プラン」

## ○ 経営危機の背景と「改革プラン」策定

**Q 市立病院の経営状況ってどうなっているの？**

**A:** 市立病院は、平成13年に国道拡幅のため移転した新病院です。その当時は予想もしていなかった医療費抑制策(度重なる診療報酬の引下げ)や、派遣医師不足の影響で収益は予想をはるかに下回り、旧病院の解体費や建設費の借金返済費用をまかなえないまま経営はずるずると悪化しました。平成19年度には、資金不足額(以後「赤字」と表現します)は27.5億円という途方もない額になりました。平成20年度にも、単年度の赤字が5.5億円発生しましたが、「改革プラン」に基づいた市からの特別な支援と公立病院特例債(注)によって、累積の赤字は8.1億円までに圧縮しました。

H21は市の支援と経営の黒字化で、累積の赤字を2.7億円圧縮して5.4億円に！



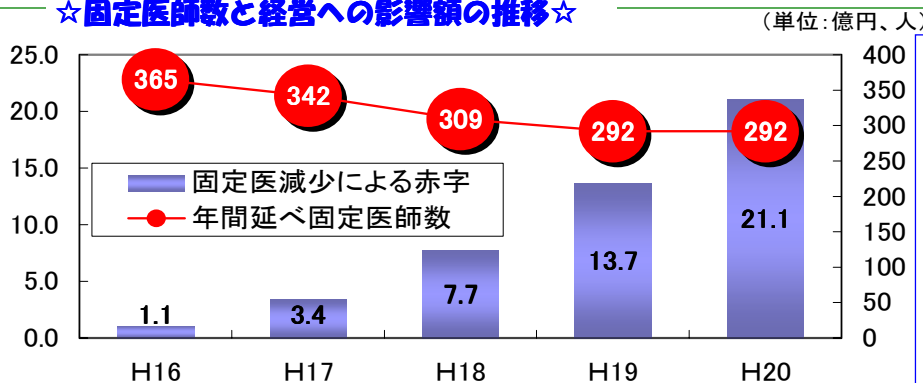
(注) 医師不足などが理由となる赤字に対して、H20年度に限って認められた借金(赤字の棚上げ)のこと。短期の借入を長期にすることで、計画的に赤字解消できるメリットがあり、7年間で返済する。

単年度の赤字が5.5億円発生したことにより、本来、33.0億円となる累積の赤字を、特例債と市の支援により8.1億円まで圧縮！

**Q そもそも、どうして赤字になるの？**

**A:** 病院の経営は、医師がいることではじめて成り立ちます。市立病院は、大学病院からの派遣が頼りなのですが、全国的な医師不足のため、大学病院自体に医師が少なくなり、他の病院へ派遣する余裕がなくなったのです。そのため、固定医師の派遣を確保できない診療科では、これまでのような診療ができず、その影響で経営が悪化し、赤字が発生しているのです。

### ☆ 固定医師数と経営への影響額の推移 ☆



※年間延べ固定医師数=各年度各月末の医師数を積み上げたもの

経営の核となる診療科で医師が減少  
 産婦人科 2人 0人 (H16)  
 呼吸器科 2人 0人 (H18)  
 循環器科 3人 1人 (H18)  
 脳外科 2人 0人 (H20)  
 上記以外にも、皮膚科、耳鼻科も固定医が0人になったことも。

このままの状況が続けば、市立病院の赤字のために留萌市全体の財政状況も危機にさらされることとなりました。そこで、市は「財政健全化計画」を、市立病院は担うべき役割を明確にし、経営の黒字化を目指す「改革プラン」を策定しました。(平成21年1月)

## ○「改革プラン」と今後の経営

**Q 赤字を出さないための方法はあるの？**

**A:**「改革プラン」では、『①収入の確保』と『②費用の抑制』についての取り組みを掲げ、常に企業の経済性を発揮することを目指しています。また、採算が合わなくても、市民に医療を提供するために『③市の負担の明確化』についても明記しています。

<主な内容>

- ① 医師確保と消化器病センターPRなどによる利用者の増（選ばれる病院への転換）
  - ② 職員給与の適正化と材料費や施設の管理経費の削減
  - ③ 救急医療と小児・産科医療は市が責任を持って実施
- 収支均衡を図るために、これらのことをしっかりと実践します。

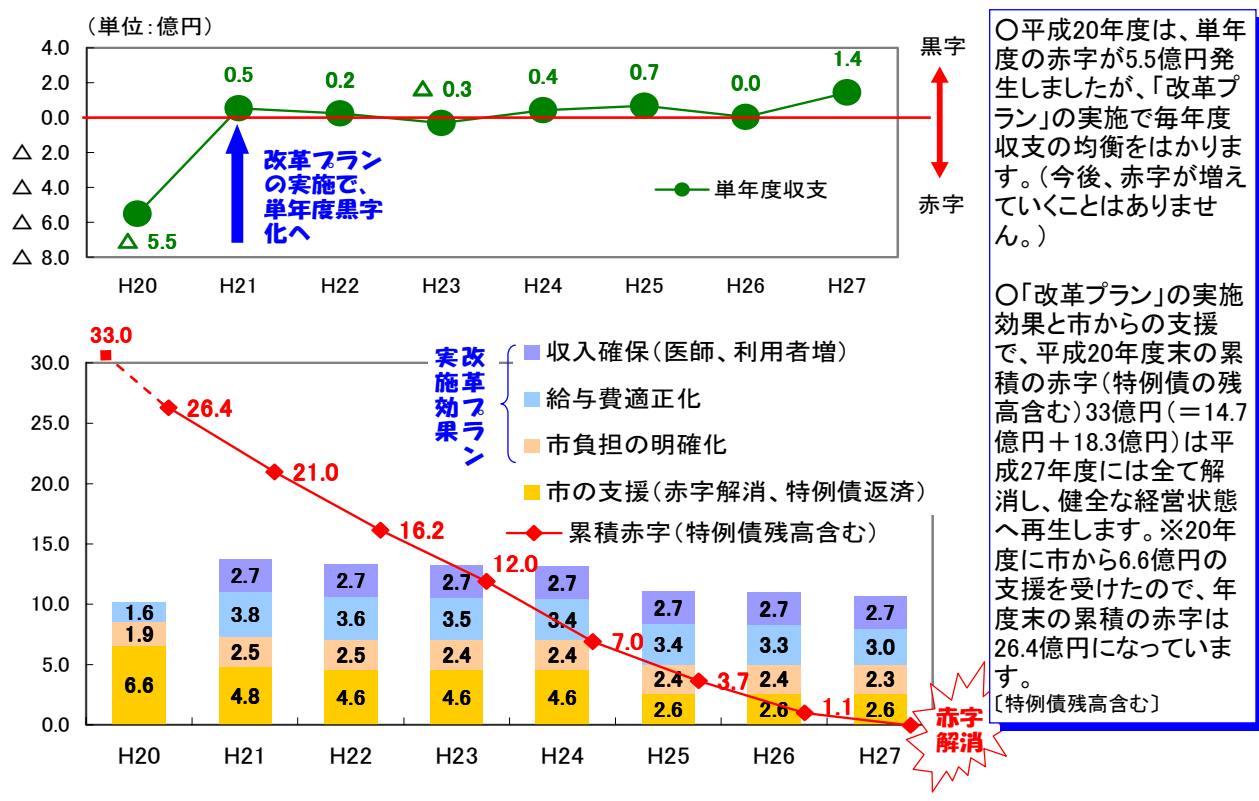
**Q 「改革プラン」で、今後の経営はどのようになるの？**

**A:**「改革プラン」を確実に実行することによって、平成21年度以降は単年度収支を均衡させ、健全な経営状態へと移行していきます。

ただし、病院だけで赤字を解消するには、その額があまりにも大きすぎるので、これまで(平成20年度末まで)に発生した累積の赤字については、赤字を借り換えた特例債の返済も含めて、全額市が負担(税金で補てん)することになっています。

※市の負担額は、総額で33億円になります。

### ☆「改革プラン」の実施と収支・赤字の推移☆



留萌市立病院は、市民の生命と健康を守ることはもちろんのこと、地域のセンター病院としての役割も果たしてきました。しかし、医師や医療スタッフの不足による診療体制の縮小などで医療の提供、経営状況は悪化の一途をたどっています。このような状況を踏まえて、健全経営に向けた取り組みを実践するために、平成21年1月に「留萌市立病院改革プラン」を策定しました。

この「改革プラン」は、市立病院としての役割を明確にし、地域医療の水準を守りながら経営の健全化を図るものです。なお、平成20年度までの累積の赤字については市が負担することとしており、特例債の返済分も含め7年間で全ての赤字を解消することとしています。その財源は市の「健全化計画」に盛り込まれた、さまざまなサービスの見直しによって生み出されることをしっかりと胸に刻み、市民に信頼される病院として生まれ変われるように取り組んでまいります。